

4 - 1 伊勢湾周辺の地震活動

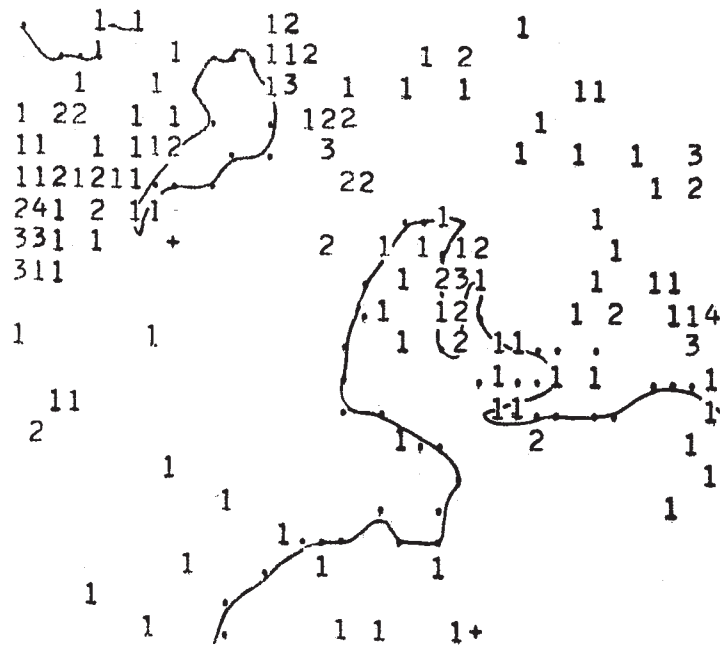
Seismic Activity in and near the Bay of Ise

気象庁 地震活動検測センター
SAMC, Japan Meteorological Agency

第1図は最近の伊勢湾とその周辺の地震の震央分布を示したものであるが、西岸は東岸に比べて地震活動が不活発である。そして、このような傾向は歴史的な地震についても同じである。同地域は地盤の沈下地帯で水準測量がひん繁に行なわれており、観測井の水位の連続観測も行なわれている。その結果によると、東岸は現在も地盤沈下が依然として続いており、観測井の水位の低下も同様である。また、西岸は一般的に沈下は緩慢で、むしろ上昇している所もあり、このことは観測井の水位の変化からも明らかである。このような西岸と東岸の違いは地下水の汲上げ規制など人工的な浅い地層の影響が大きいものと考えられる。しかし、一応地殻変動的な原因もないとは断言できないので、同地域の南部に発生する深さ 60 km 以下の浅い地震（第2図）を使って V_P / V_S を次の式から求めてみた。

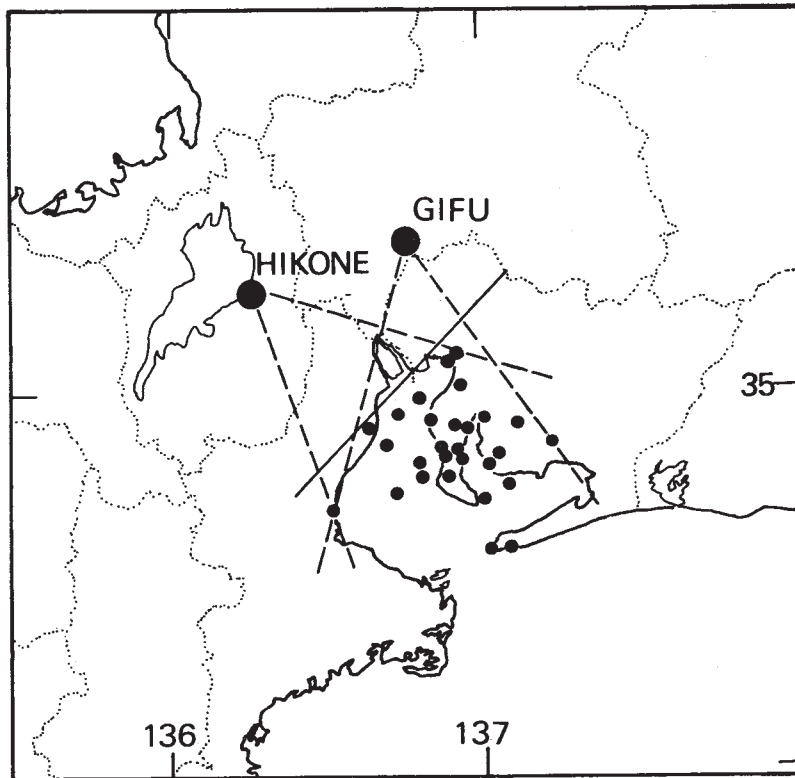
$$V_P / V_S = k = \frac{S - O}{P - O}, \quad k - 1 = \frac{S - P}{P - O}$$

但し O は発震時を示す。第3図がその変動である。図から西岸を通過する地震波速度比が、東岸に比べて 1970 年前後を中心としてやや規則的な変動をしているが、これに対応する地震は発生しなかった。



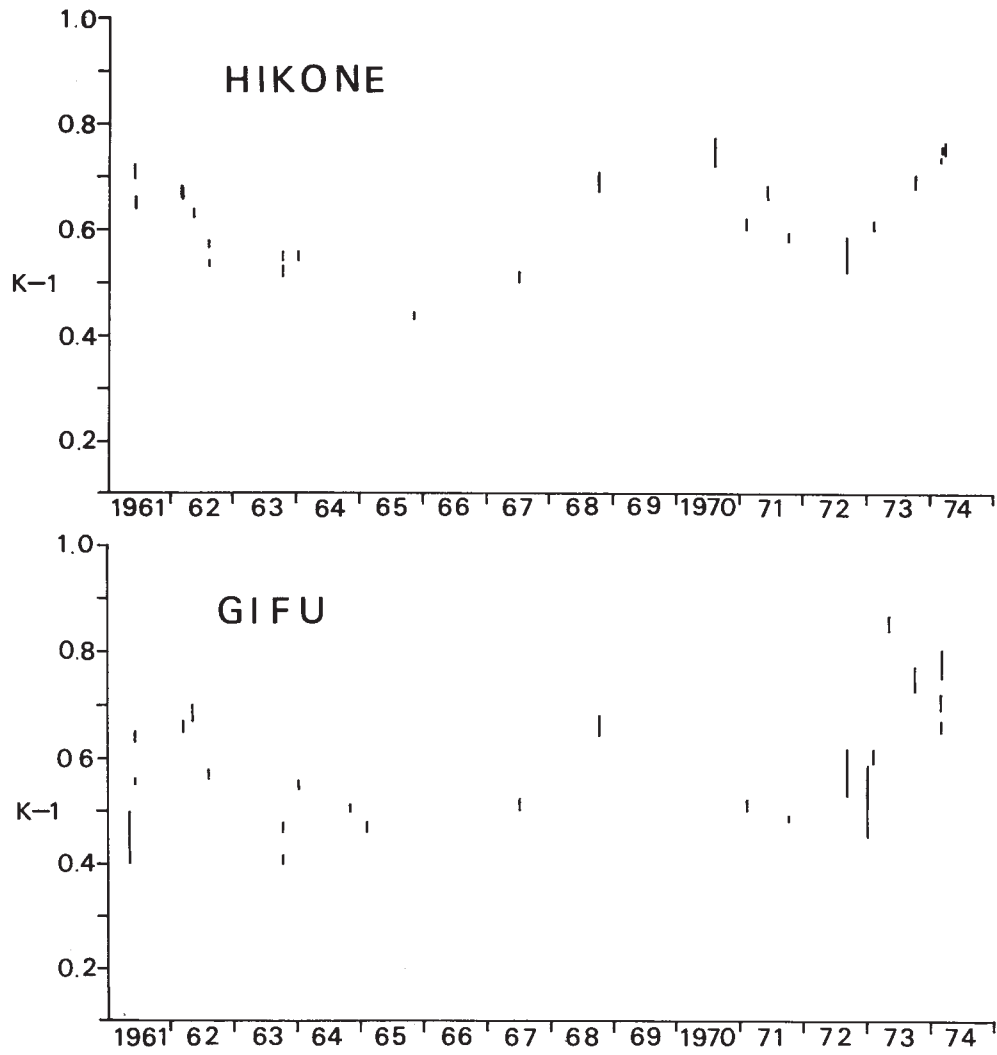
第1図 最近の伊勢湾周辺の地震の震央分布図
 (1961年1月 - 1974年7月) (h = 0 - 30km)

Fig. 1 Recent seismic activity in and near the Bay of Ise (Jan. 1, 1961 - July 31, 1974). (h=0 ~ 30km).



第2図 V_p / V_s が測定された地震

Fig. 2 Earthquakes with which V_p / V_s was calculated.



第3図 伊勢湾沿岸を通過する地震波の V_P/V_S の変動

Fig. 3 Change in V_P/V_S of seismic waves passing the coast of the Bay of Ise.